

垂水コミュニティ

# 幼少期から始める人づくり

垂水コミュニティでは、地元の児童・園児らに地域の魅力を学べる場を提供しています。子どもたちが幼いときから地域に愛着を持つことで、「将来、地域を担う人材に育ってほしい」という思いで行っている、様々な取り組みを紹介します。

## 小学生がふるさとを学ぶ

コミュニティの高齢者を中心に組織する「垂水白寿会」では、垂水小学校の授業の一環として、「ふるさと学習」を行っています。授業の中で、神社やお寺などを巡って地域の歴史・文化を教えたり、ため池や出水などを訪れて自



出水を訪れ、地域の自然を学んでいます

## 園児にはふるさとの遊びを

然とふれあいながら学んだり、地域の魅力を子どもたちに伝えていきます。これは、約40年にわたって途切れることなく続いています。

コミュニティでは、地元の園児らが遊びながら学べる場所づくりにも取り組んでいます。七夕の時期には園児らと一緒に飾りを作ったり、新年には凧（たこ）を手作りして凧揚げをしたり、コマ作り・コマ回しを教えたりしています。昔ながらの遊びは、時代の流れとともに



昔ながらの遊びを一緒に楽しめます

伝承する人が少なくなっていることもあり、園児らは新鮮に感じるようです。凧揚げなどは、子どもたちが歓声をあげて大喜びするようで、コミュニティの人たちもそのような姿を見るとうれしくなるそうです。

## 広がっていく学習の場

小学生へのふるさと学習は、学校の外で学ぶ機会になっていきますが、今年度初めて、小学校から「コミュニティの人に学校で地域のことを教えてほしい」と依頼がありました。これを受け、コミュニティの奥田会長が講師になり、小学校で授業を行いました。また2月末には、垂水小学校3年生が中心の「ふれあいまつり」がコミュニティセンターで開かれます。学びの場をどんどん広げながら、子どもたちが地域への愛を育めるよう、垂水コミュニティの取り組みは続きます。



コミュニティの会長らが小学校で授業

## 豊かな人間への成長の場

垂水コミュニティでは、子どもたちがふるさとを知り、愛着を持つてもらうことに力を入れています。子どもたちが大人になって、地元に住み続けたり、外に出て行ったとしても戻ってきたりすることを期待して取り組んでいます。こちらが勉強させられることも多々あります。コミュニティセンターを案内したときには、はっとさせられるような質問もあり、いい経験になりました。学校とコミュニティの密接な関係は大きなテーマです。「幼いときからコミュニティと関わることが、より豊かな人間へ成長することにつながる」という信念を持ち、子どもたちとの交流を続けていきたいと思っています。



垂水コミュニティ  
会長  
奥田 徹さん